

P D C A 法について

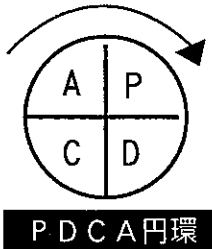
P D C A とは

- P...プラン (計画)
- D...ドゥー (実行)
- C...チェック (確認)
- A...アクション (対応) のこと。

(※コウモリのフィードバック飛行に似ている)
(※無駄、リスクの少ない試行錯誤法と言える)

コントロールとは

コントロールとは、
P D C A 円環をまわすことです。
(※コントロール=管理=制御)



P D C A コントロールは 何の為の技法か

目的にむかって

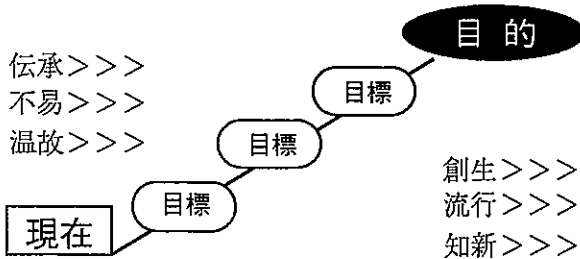
価値観 志 目的選択

方針 (目標と指針) で活動を制御して

意思決定 上意下達 目標達成

その活動結果に対応して方針を制御する技法

目標達成の成果享受 衆知反映 軌道修正



P D C A コントロール適用領域

個人で行う場合と	個人
モデル・グループで行う場合と	部門
組織全体で行う場合があります。	全体

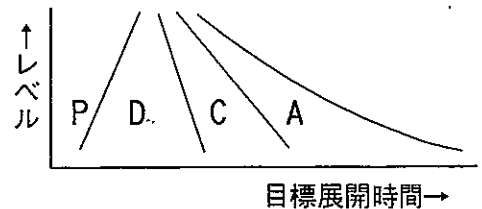
P D C A コントロールの別名

個人や組織が、目的にむかって
方針 (目標と指針) で活動を制御して
その活動結果に対応して方針を制御すること
から「方針管理」とも言います。

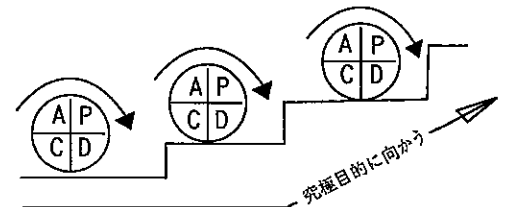
P D C A コントロールの特性

● P D C A のレベル

・P 段階で適切な時間をかけることが得策



● P D C A のローリング

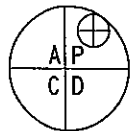


・P D C A の蓄積が個人・組織の実力

● P D C A の

フラクタルな構造関係

・極小は相似的に極大を含む
(例えば、計画段階の中
でも P D C A 円環がある)



・ワンサンプルボーリングの有効性

● P D C A のリンケージ

・全体目標 ⇄ 全体手段
↓
部門目標 ⇄ 部門手段
↓
個別目標 ⇄ 個別手段

● P D C A のフレキシブル性

・現在目標 ⇒ 試行錯誤目標 ⇒ 目的
<目標でPDCA... 目標をPDCA...>
・予期せぬ出来事を大切にしてい

● P D C A は重点指向性を要す

・重点課題と日常課題とを区分する
・ワンサンプルボーリングの有効性
(一つ変えれば全体が変わる)

● P D C A のサイエンス性

・事実重視 (但し、目的は堅持する)
・事実把握 ⇒ 要因解析 ⇒ 対策案
⇒ 対策決定 ⇒ 実行 ⇒ 成果照合
⇒ 次の対応又は目標の見直し